



去る五月二十六日、二十七日大阪市において、都留織物産地振興協議会主催・都留市後援による新商品発表展示会が行われました。

都留市における基幹産業の一つである織物業は、現在構造不況業種として低迷の状況にあります。その活性化をはかるために、今回テキスタイルデザイナー宮坂博文氏の指導により、郡内織の伝統技術を生かし新しい消費者ニーズに対応した、実用的寝具の甲斐絹を発表展示いたしました。開催中大きな反響を呼び、今後技術改革を一層進めることにより、織物業界の復活が大いに期待されるのであります。

今織物は、低迷状況にあります。また、この業種はほとんどが中小企業で、一度時流に乗り遅れると、なかなか立て直しができません。特に新商品の開発となると個人では不可能です。そこで五年前に当協議会を発足させ、新商品の協同開発に取り組みました。今回は、市役所並びに県の工業技術センターのご協力のもとにデザイナーの宮坂先生の指導を受けながら都留の伝統織物である「甲斐絹」を現代に甦らせたわけです。先人



達か、長い年月をかけて作り上げた先染めの織物としては、世界に類を見ない、蚕が作った無撚りの絹糸そのままを練

こんどは、素材の提案と言うことで、従来の寝具などの素材としてではなく、他のものにも使える素材であることを、PRするために、繊維業界の集中する大阪でこの展示会を行ったわけなんです。色々な方が見にこられました。服飾デザイナーからの反応が一番多かったと思います。今後は、業界内での反応を見ながら対応して行きたいと思っています。

伝統織物 “甲斐絹”

新作発表会



「ホタルを守る会」会長 渡辺与蔵さん

私が、たまたま中野房治さんからホタルの話聞いたの

で、「それは良いことだ」と思っすぐ看板を作った。ホタルの出るところに立てたんです。でもこれだけでは、ホタルを守る事は出来ないと思い、自分が自治会長をしていたものですから皆に協力してもらおうと話をしてみたんす。そうしたら、皆が気持ちよく引き受けてくれたので、私が会長となって「ホタルを守る会」を作ったんです。自治会の皆が会員です。



中野房治さん

ホタルの出るところは、清水場と言って都留市の水源地の入り口なんです。そこには

○展示会を終えた

奥協会長に

お話しをお聞きしました。

昔からホタルが沢山いました。でも、ここ何年かはその姿を見ることがありませんでした。たしか、昭和五十九年の夏だと思えます。ホタルの淡い光をみました。その数は凡そ三十ぐらいだったと思います。珍しいこともあり、ホタルを捕りにくる人がずいぶんいました。この数少ないホタルを

守ろうと、人影がなくなるまで「ホタルを捕らないで」と言っまわりました。中には、「おじさんにそんな権利あるの」なんて言われたこともありましたが、段々捕る人も少なくなりました。保護しているのに、心無い人達にとられてしまうのは寂しいことだと思えます。



り染めして織り上げた技術、素材ともこの産地の最高の物を持ち出した訳なんです。要するに「甲斐絹」は、甲州に残る最高のブランドであり、最高の商品であることを意味するんです。